

会 議 録

会議名	令和4（2022）年度みよし市障がい者自立支援協議会第3回全体会
日 時	令和5（2023）年3月24日（金）午前10時から正午まで
場 所	おかよし交流センター ホール
出席者（敬称略）	別紙参照
欠席者（敬称略）	しずく、みよし市身体障害者福祉協議会
傍聴の有無	3名

発 言 要 旨

第1 あいさつ

年度末のお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。今回は、今年度3回目になり、総括として各部会から今年度の取組や抽出された地域課題等の報告をする。協議事項として、地域生活支援拠点の整備を挙げている。構成員の皆様にもご協力いただき、地域診断表の集計を行った。集計結果を基に意見交換をしたいと思っている。協議会で出された意見や助言を基に、来年度の協議会の取組に繋げていきたいと思っているので、よろしくお願いします。（会長）

お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。また、日頃は本市の福祉行政にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症も落ち着き、マスクの着用に関して本市では原則職員の判断になっている。コロナ禍で活動が自粛される等活動しにくいところがあったかと思うが、今後は注意を払いつつも活動しやすい状況が戻ってくると思っている。また、次年度において、本市では機構改革が行われ、少子化対策に対応し、市民の利便性の向上を図るとともに、子どもと子育てに優しい街づくりの実現のため、2課体制の子育て健康部が3課体制の子育て未来部になる。新たに子育て相談課が設置されるため、ふくしの窓口と連携して相談体制の充実を図りたいと思っている。また、令和5年度に障がいをお持ちの方の作品を展示する愛知アール・ブリュット展をサテライトとして本市で開催する。令和6年1月に開催予定で、現在愛知県と調整中。皆様方にご協力いただくこともあるかと思う。本日の全体会では、令和4年度の各専門部会等の進捗状況や令和5年度の目標、地域生活支援拠点の整備について協議してもらおう。自立支援協議会で出されたご意見は、本市の障害福祉の推進にあたって非常に重要なものと捉えている。今回も皆様の忌憚ないご意見をよろしくお願いします。（福祉部次長兼課長）

第2 協議事項

1 令和4（2022）年度のみよし市障がい者自立支援協議会について

(1-1)運営会議の事業報告について、事務局福祉課立石から説明。

今年度は目標を3つ立てており、それぞれの取組の達成度は、70%、75%、100%としている。取組内容①の課題（展望）について、地域課題の協議方法の検討が必要だと考えているため、来年度、基幹的相談支援センター担当と考えていきたい。取組内容②の課題（展望）は、「限られた時間の中で活発な意見交換と運営ができる工夫が必要である」としている。来年度の目標は、今年度と大きく変わりはないが、目標①を少し変更している。また、運営会議において、基幹的相談支援センター担当から、相談支援事業等で確認できた地域課題の報告を受けた。下半期地域課題報告書について、基幹的相談支援センター

担当から説明をお願いします。

下半期地域課題報告書について、基幹的相談支援センター担当『しおみの丘』秋田氏から説明。

地域課題報告書は、みよしの街づくりに繋げていくために、個別支援会議や事例検討会、委託の相談支援専門員からの聞き取りで確認できた課題を報告書としてまとめている。個別支援会議について、新型コロナウイルス感染症の感染状況により開催のしやすさが異なったため、開催月にばらつきが見られた。個別支援会議の報告方法を見直す予定。続いて、相談支援事業で確認できた課題について、今年度から相談支援連絡会を開催し、指定特定相談支援事業所からも課題を挙げられる仕組みを作った。相談支援専門員から挙げた課題を各項目ごとにまとめているため、確認してほしい。報告内容（まとめ）について、大きく3つ挙げている。「(1) 専門的な知識や技術を持つ人の育成・事業所及び人材の確保」については、毎回挙げている課題になっている。その分大きな課題だと感じている。特に医療的ケアや強度行動障害に対応できる人材の確保等が大きな課題になっている。「(2) 居住支援」について、市内に入居できるグループホームが少ないことが課題で挙げられている。また、緊急時の受け入れ先は決まっているが、実際に利用するにあたり、受け入れ体制が整わないことによって具体的な利用に至っていないケースもある。「(3) 家族支援」について、8050問題が広がってきており、高齢の親と障害を持つ子の世帯が生活を続けていくことが困難になってきたケースが挙げられている。多世代で関わる必要があるケースもあるため、障害の分野だけでなく、重層的な支援体制整備が必要になってきていると感じる。また、今年度はくらし・はたらく相談センターの生活困窮担当や成年後見担当と情報共有する機会を設けており、障害分野だけではない地域課題が報告されるようになってきた。例年複雑化している課題を解決するためには、他分野での協働が必要になってくるため、やはり重層的支援体制整備をしていく必要があるかと思う。

構成員名	意見（質問・回答）等
みよし市 社会福祉協議会 谷口氏	運営会議の事業報告書に「肢体不自由児・者の居場所について、新規事業所が開所予定」とあるが、言える範囲で良いのでどこがいつ頃どの辺りに開所するのか教えてほしい。
福祉課 児島	いつどこでどのようにやるのか具体的に決まっている訳ではないが、そのような話が入っていたため、事業報告書に記載している。

(1-2)人材育成検討チームの事業報告について、事務局『しおみの丘』秋田氏から説明。

取組内容①について、障がい福祉従事者を対象とした初任者研修と中級研修を企画・開催した。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オンラインで実施した。今年度は、泰山寮で対面式で開催することができた。また、オンライン懇親会を年3回開催した。他事業所の職員との出会いや新たな価値観の気づきに繋がったと思っている。課題（展望）について、今回は1日掛かりで午前、午後と繋げて研修を行ったが、時間の都合が合わずに不参加となる事業所があったため、来年度はテーマを絞り2時間程度の研修を複数回開催していきたい。取組内容②について、新型コロナウイルス感染症にも対応した形でオンライン開催をする予定だったが、実施予定の8月に新型コロナウイルス感染症が再度流行し、どの事業所も大変で職員をなかなか出せないということで開催を見送った。管理職向けの研修については、アンケートを実施。各事業所がどのようなことに課題を感じているのかを確認したところ、人材育成や多職種連携が挙げられた。管理者同士がみよしの課題を共有できる仕組みを作るため、来年度はその1回目を開催していきたい。取組内容③について、地域共生をテーマに中級研修を開催した。他機関と繋がることの重要性を意識することができたと思う。地域生活支援拠点検討チームと協働して行うことはできなかったが、来年度は地域生活支援拠点の項目に専門的な人材があるので、そこに力を入れていきたい。最後に、来年

度の目標について、①②は変更なし。③は、「障がい福祉従事者は強度行動障害についての理解を深めていく。」とした。

構成員名	意見（質問・回答）等
手をつなぐ親の会 岸野氏	強度行動障害について理解を深めていくということで、人数は多くはないが、親としては一番困っているというところに力を入れてもらえるのはとてもありがたい。

(1-3) 暮らしの場検討チームの事業報告について、事務局『相談支援事業所わらび』深田氏から説明。取組内容①について、市内で緊急時対応を必要とする人の実態把握を相談支援専門員に行った上で、リーフレットを作成し、実働に向けて登録を開始した。現在相談支援専門員に対象者に向けて説明を行っている。WGを年3回開催し、緊急時対応の整備をするとともに、新たな受け入れ先の候補についても協議を行った。来年度は、実働した後の評価と自宅等の新たな受け入れ方法も含め、協議していきたい。取組内容②について、市役所各課、社会福祉協議会、相談支援専門員と共通認識を持つための勉強会を年3回開催した。開催する中で、話し合う場が必要だという共通認識を持つことができた。来年度も引き続き勉強会やワークショップを開催し、知識を深め、課題を共有していきたい。また、来年度はグループホームも含めた住まいの場及び体験の場の確保についても検討していきたい。暮らしの場検討チームとして検討すべき内容が年々増えている。運営会議でも部会にしてはどうかという意見も出てきているため、その点も視野に入れながら取り組んでいく。

構成員名	意見（質問・回答）等
しおみの丘 松平氏	あゆみ会の生活介護は、現在52名が利用しており、平均年齢が37歳。利用者の父親と母親も平均年齢が70歳になっている。また、母子・父子家庭がその内12名。両親がみえない利用者が5名。およそ3分の1の利用者が母子・父子家庭か両親ともいないか。利用者の緊急時や将来のことを考え、日頃からグループホームや短期入所の宿泊体験を利用している人が多くいるが、その中には自宅以外で泊まる体験をしたことがない人やハードルが高い人がいる。昨年度8月にあゆみ会で2つ目のグループホームができ、男女ともに体験ができるようになったが、新型コロナウイルス感染症の影響で計画的に進めることができなかった。今年度は、日中の施設を16時で終わり、グループホームに移動してご飯を食べ、19時に自宅に戻るという宿泊でなく日帰り体験を実施した。年間11名利用した。利用する前は、緊張や不安で嫌だという利用者もいた。だいたい3日間体験をする。グループホームに入所している先輩から声をかけられ、次はいつかと楽しみにしている利用者もいる。ただ、日帰り体験は公的サービスではないため、利用者は自費負担、事業所は報酬なし。日帰り体験が市町村事業に位置付けられ、利用者や事業所にとって利用しやすい、やりやすい事業になると良い。日帰り体験を実施した利用者のうち2名は、宿泊ができるようになった。宿泊体験については、グループホームで報酬が出ている。現在は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、あゆみ会の利用者だけで行っているが、市内に住んでいる障がい者誰でも宿泊体験ができる仕組みがあると良いと思っている。

(1-4) 地域生活支援拠点検討チームの事業報告について、事務局『みよし市社会福祉協議会』三輪氏から説明。

今年度は、「みよし市版地域生活支援拠点事業・地域診断表に基づき、居住支援のための5つの機能のレベルアップを図る。」ことを目標として事業を実施した。その目標にある5つの機能のうち、地域生活支援拠点検討チームでは、「地域づくり」の機能について取り組んでいる。取組内容①について、地域共生ワークショップを実施した。地域共生ワークショップは、地域共生社会の実現に向けて、制度理解や具体的な事例の理解を深めるとともに、専門職の分野を超えた関係づくりと具体的な取組を企画する内容で実施した。地域共生ワークショップの内容は実績1に記載のとおり。参加者は、行政、事業所等大きく5分野、合わせて31名の参加があった。地域共生ワークショップの効果としては、「4回目のプレゼンを参加者同士が分野を超えた任意のグループを作り企画する等参加者同士の仲間意識が生まれたこと」、「制度理解や他市の具体的な事例を通じた同じ内容の講義を受けることで共通のイメージが持てたこと」、「制度理解、共通のイメージ、プレゼンを通じた企画を通じ、そのプレゼン内容等を来年度以降の具体的に進めていく準備段階まで達することができたこと」が挙げられる。地域共生ワークショップの最後のプレゼンでは、「飼っているペットを預ける先がないことによる入院拒否を機械としたペットの預かりの仕組みづくり」、「子育ての中の保護者がベビーカーでも健康づくりができるベビーカーお散歩マップづくり」、「ニーズをマッチングするアプリづくり」、「誰もが参加できる防災訓練」の4つの企画が選ばれ、協議された。この4つの企画がその企画目的を保持したかたちで実現するよう参加者のフォローアップも含めた協議の場を設定する等の取組を行っていきたいと考えている。取組内容②について、第2回全体会で地域診断表の説明を行い、構成員からもらった回答を集計し、分析した。成果として、地域診断表を実際に回答することで、地域生活支援拠点がどの分野の人にとっても関係することであるという意識に繋がったと考えている。また、今回協議事項2で議論してもらおうが、地域診断表における現在の到達地、今後の課題について共有する機会ができたと考えている。地域診断表の回答は、毎年構成員にも協力してもらいながら、継続していきたいと考えている。様式等については、構成員の意見をもらいながら必要に応じて改訂していきたい。最後に、来年度の目標は、「多機関が協働し、地域共生ワークショップで出された企画が実現するような取組を行う。」、「地域診断表に基づく現状の共有と課題の分析を継続する。」とした。地域診断表の回答の集計については、地域診断表の議論の際に改めて説明する。

構成員名	意見（質問・回答）等
みよし市 社会福祉協議会 谷口氏	地域共生ワークショップにも参加した國信氏の話は、厚生労働省のホームページやみよし市が企画した講演会、地域共生ワークショップの欠席者用のYouTube配信で何回か見たり聞いたことがある。國信氏は、今の時代の背景をしっかりと把握していこうと言っていた。背景を知った上で、複雑化した福祉の問題を今の制度で何とかできるのか、社会生活に訪れるリスクが今までやってきた自助や共助で賄えるのか、縦割りの制度で漏れてしまった人を公助で助けることが合っているのかということを見直す必要があるという話に共感を受けた。誰ひとり取り残さないということは協議会でも話題になっているが、それについても共感した。それを障がいの分野から地域共生ワークショップや地域診断表を用いて取組を進めていることはすばらしい。

(2) 児童部会の事業報告について、事務局『相談支援事業所わらび』戸村氏から説明。

取組内容①について、部会では「就労している家庭への発達支援」をメインに動いている。就労している家庭が増え、その子どもを受け入れている園で発達支援が必要な子どもがどのくらいいて、担当している保育士がどのようなことで困っているのかを確認するため、アンケートを実施する予定。今年度中に実施

できれば良かったが、間に合わなかったため、来年度実施して課題の把握を行う。取組内容②について、特別支援連携協議会でつながりシートを広く知ってもらいたいという意見が出たため、児童部会で検討を行ったところ、学校教育課のホームページに掲載することになった。第3回児童部会で学校教育課の菅田氏にホームページの掲載案を出してもらい、構成員で意見交換を行った。つながりシートは園から小学校へ繋いでいくためのものだが、その先も繋げていくためのものが必要かどうかを含めて検討していきたいと考えている。取組内容③について、保護者の語る場があると良いという意見から、構成員が所属している機関で行っている取組を記載している。例えば子育て支援課では、赤ちゃん訪問に加えて訪問回数を増やしていたり、いつでも電話を架けられる黒電話もある。ベル三好幼稚園では、園庭を開放して来園児ではない子どもや母親に来てもらう取組をしているとのこと。今時の母親がどのような場所だったら話しやすいか、どのような方法だと話しやすいか、母親たちが少しでも楽になれるような場所を作れたらよいという意見が部会で出た。今後は、各機関の進捗状況を確認しながら、場づくりについて考えていきたい。

構成員名	意見（質問・回答）等
<p>教育委員会 菅田氏</p>	<p>つながりシートは、児童部会が中心に作った幼稚園・保育園から小学校に繋ぐ非常に大切なシートになっている。学校では、小学校から中学校に繋げ、中学校から高校に繋ぐための個別支援計画に作り替えている。つながりシートを学校教育課主催の特別支援連携協議会で報告したところ、シートを広く周知し、皆が使いやすいシートにしていく、保護者に知ってもらう取組を進めるべきだという意見が出たため、児童部会で提案し、ホームページに掲載することになった。また、外国籍の子どもも非常に多くなっており、保護者が見た時にもっと分かりやすい資料になっていると良いということで、今年度は5か国語の翻訳にも取り組んだ。来年度は、外国籍の対応もできるようになるため、シートを上手に使えると良い。</p>
<p>豊田市こども 発達センター 神谷氏</p>	<p>就労している家庭への発達支援について、アンケートを作成したということだが、豊田市でも7年程前に調査を実施しており、乳児保育を担当している保育士へ調査を実施した。みよし市でどのような項目でアンケートを実施するかを聞かせてもらえると、豊田市の成果と照らし合わせることができる。豊田市独自のものなのか、他の自治体でも同じようなことがあるのか、参考にできることもあるかと思う。つながりシートについて、外国籍の子どもが増えている。みよし市のホームページを見たところ、外国人の総人口の統計はあるが、国籍別の人口統計はなかった。多国籍化しているのではないかと思う。どの国籍の保護者が多いのか、多い国籍順につながりシートの翻訳をしたら良いと思う。また、外国人が集住化している、1つの地域に固まっているのではなく、様々な地域で暮らしている外国人が見られる。その外国人の子どもの発達に心配があると感じた時に、多くの障がい者や保護者がいると色々な情報が出てくるが、学校に1人しかいないとどうしても情報が漏れてしまう。外国人がどこに住んでいても平等に情報が得られるような仕組みが必要だと思う。最後に、親子支援について、子ども家庭庁が設立され、障がい児支援については子ども家庭庁が担ってくると思う。障がい児支援というよりは、子育て支援の1つとして障がいのある子どもや発達支援が必要な子どもが組み込まれていく。そのため、障がいがあるなしに関わらず、広</p>

	<p>く子育てをする保護者の支援について、通いやすい場所で行える仕組みが必要だと思っている。子育て支援センターの職員や幼稚園・保育園の先生が通常の子育てだけではなく、障害がある子や発達支援が必要な子の特融の育ちについて、きちんと理解をした上で支援ができるような人材育成も必要だと感じた。</p>
--	---

(3) 就労支援部会の事業報告について、事務局『はたらくサポートセンター』横山氏から説明。
 年度途中で取組内容を変更したところが何か所がある。取組内容①の上段について、アンケート調査を実施した。職場体験を受け入れてくれる企業は多くあったが、社会貢献や障害理解ができたという企業もあれば、受け入れるメリットが少ないという企業もあった。そのことについて、今後検討していきたい。取組内容①の下段について、WGの設置はせずに職場体験冊子の改訂を行った。改訂は既に済んでおり、学校にも協力してもらった。学校で困っている職場体験と就労支援をしている事業所での困り事が異なっていることが課題として挙がっている。両者が使いやすい職場体験になるよう検討したい。取組内容②について、今年度は就労支援事業で担当した。来年度以降も就労支援事業で実施し、就労支援部会に報告をあげるため、部会での取組は終了としている。取組内容③について、実態調査を行った。企業や退職者に聞き取りを行ったが、分析をするには不十分な数だった。また、今回は離職者を対象者としていたため、就労中の人と離職者と同じような悩みを抱えていないのかどうか把握ができなかった。来年度以降は、個別の課題を抽出し、検討したい。取組内容④について、部会では、今まで障害がある人の障がい者雇用について検討していたが、高齢や困窮のケース等様々な問題が混ざっているのではという意見が出た。障害に限定せず、幅広い課題を検討する必要がある。

構成員名	意見（質問・回答）等
部会長 山口氏	<p>高齢や困窮等、障害以外の理由で働くことが困難になっているケースが出てきている。「障がい者自立支援協議会」ではあるが、働くことを考えた時に障害がある、診断があるだけではなく、働くことに困難を抱えているケースを掘り下げて検討した方が良いのではないかという意見が出てきている。部会では、高齢や困窮の就労支援の情報共有を行った。今後、障害に関わらず、幅広い見方で働くことを考えていきたいと思っている。この場で構成員から承認をもらいたい。</p>
みよしはたらく協議会 鶴田氏	<p>障害の方たちが働くというところで見ると、企業に求めるのは後退しているような気がする。後退というのは、一緒に働くということではなく、枠で考えていく。個で見えていない。原点は何だろうか。障害だからどうこうするというのではなく、この子は障害を持っているだけ。フラットに考えて、企業も地域も受け入れてくれると良い。制度で物事を見るのではない。</p>
泰山寮 近藤氏 (会長)	<p>部会長の山口氏から話があった、対象者を広げる点については、後ほど構成員から承認を取りたい。</p>

(4) 精神保健福祉部会の事業報告について、事務局『はたらくサポートセンター』小西氏から説明。
 取組内容①について、ピアサポートについて認識が薄かった。ピアサポートの共通認識を持つことを部会で行った。ピアサポートに対する理解は、簡単なことではない。今年度からシエルブルーが開所したため、シエルブルーに集まる人から活動を始めるということで、ピアサポート委員会を作った。来年度は、ピアサポーターの普及と普及するためのピアサポートの養成を検討していきたい。取組内容②について、課題の集約はしっかりとできていない。シエルブルーの課題を考えた時に、それが市の課題として捉えて良い

のかどうか、もっと広く課題を捉えていかなければいけないと思っている。昨年度、部会の構成員から課題を聞き取った。その課題も踏まえ、来年度は再度検討していきたい。取組内容③について、ひきこもり支援連絡会を3回開催した。「不登校からのひきこもり」と「8050問題」では、問題の質が違うため、分野を分けて開催した。不登校が2回、8050問題が1回となっている。ひきこもり支援の課題の全容が分かる支援機関はどこがあるのか、3回目のひきこもり支援連絡会で検討を行った。ひきこもり支援のフローを作成することが必要だと感じており、来年度はフロー作成と連携体制を強固にするために取り組んでいきたい。

構成員名	意見（質問・回答）等
<p>部会長 兼重氏</p>	<p>今年度の部会の取組は、シエルブルーが4月に開所したこともあり、精神障害の人やひきこもりの人が社会参加していくことに焦点を当てていた。精神の課題がしっかり集約できている訳ではないため、来年度は精神障害者の課題についてももう少し広く検討していきたい。また、シエルブルーについて、登録が50数名いる。平均8名利用。精神障害者の居場所がなかった。支援者や家族としか関われなかった人たちが居場所に来て、友達のように関わられるようになった。横の繋がりができたのはとても大きい。そのことをピアサポートと言うが、来年度はこの取組をしっかり仕組みづくりできるようにしていきたい。</p>
<p>精神障がい者家族会 畠中氏</p>	<p>シエルブルーが4月にでき、家族会としてはとても助かっている。定例会に必ず職員が出席してくれる。年齢が高く、4～5名しか集まらないが、自分の悩みを話すが、他の会員も経験談のみで答えられない。シエルブルーの職員に相談にのってもらえるだけでも大きい。将来のことが心配だということで、成年後見制度の説明会を開いてもらった。新型コロナウイルス感染症の影響で行事はほとんど行っていないが、4～5名で何ができるか。今回は、シエルブルーの屋上で弁当を作り、一緒に食べようかという話が出ている。皆で集まり、お弁当を食べるだけでもいい。親の苦しさは分かる。シエルブルーと一緒に家族会も元気になれば良いと思う。</p>

(5) 医療的ケアサポートと部会の事業報告について、事務局『キッズラバルカ』川北氏から説明。
 取組内容①について、昨年度から引き続き行っているが、今年度は利用者の関係で対象者を変更した。新しい対象者について、WGのメンバーで訪問を行った。この対象者は、第2回部会の事例検討の対象にしている。子育て支援課、保健センター、WGのメンバーでこの家庭の希望に添えるようなかたちで取り組んでいきたいと思っている。取組内容②について、これも昨年度からの継続。みよし市民病院との連携だが、新型コロナウイルス感染症の影響で中断していた。来年度は早急に医療機関と話し合いをしていく。取組内容③について、市内の医療的ケアがある子どもの情報の集約を行っている。そこで出た課題を部会にあげている。来年度は、情報共有だけではなく、地域課題を意識して行う予定。また、情報ガイドについて、豊田市の自立支援協議会と共同で作成し、NICUがある医療機関に周知啓発を行った。毎年豊田とみよし市のホームページに最新版を掲載する。もし医療行為があったり、NICUに行く人がいれば、ホームページに掲載しているので、周知してほしい。取組内容④について、市内の訪問看護ステーションと医療的ケア児・者を受け入れている事業所を対象に研修を開催した。そこで挙がった各事業所の不安や課題は、「医療的ケアについてあまり知識がないこと」、「怖さがあること」。怖さをどのように解消していくかということで、来年度は回数を増やして研修を開催したい。また、医療的ケア費給付事業を利用してい

る対象者が通う学校向けにも研修を行った。今年度から学校教育課所管の委託事業に変更になっているが、継続して医療的ケア児等コーディネーターが関わっているため、来年度も継続して研修を開催する予定。来年度は、医療的ケア児等コーディネーターを中心に、部会メンバーにも各ライフステージ（保健センター、子育て、学校、市内の事業所）の研修担当をしてもらう。

構成員名	意見（質問・回答）等
いきもの語り 水井氏	WGに参加している。災害を想定したシミュレーションということで、所属している法人も福祉避難所になったこともあり、スタッフにも共有し、どのようにしたら良いか考えていかなければと思っている。デバイスが多い方もおり、災害時に荷物が増える。シミュレーションで体験できるため、しっかり行いたい。
構成員名	意見（質問・回答）等
泰山寮 近藤氏 （会長）	先程就労支援部会で承認を取りたいという件について、再度部会長から説明してほしい。
部会長 山口氏	みよし市の委託事業で高齢・困窮の事業があるように、障害以外の働くことに対する事業が始まっている。事業の中から様々な報告が挙がっている。障害がある人は法定雇用率で守られているが、制度に乗らない人で働くことに困難さを抱えている人が増えていることが分かってきた。働くことを考えた時に、障害の有無で考えるのではなく、手帳を持っていないが障害を持っている人もいるため、全体的に考える必要があるのではないかとと思っている。障害者以外とも関わりを持ちながら考えていきたいと思っているが、どうか。
泰山寮 近藤氏 （会長）	部会長から説明があったがどうか。 —異議なし— 来年度は、障害者に限らず、高齢者や困窮している人に対するサポートをお願いしたい。
副会長 阪田氏	「障がい者自立支援協議会」ということで今すぐに決定しなくても良いが、ゆくゆくは「障がい者」という文言を取っても良いのではという議論に繋がるかと思う。そこは引き続き課題として検討してほしい。

2 地域生活支援拠点の整備について

地域生活支援拠点の整備について、地域生活支援拠点検討チーム事務局『みよし市社会福祉協議会』三輪氏から説明。

地域診断表の回答の集計について、全体会構成員と事務局の回答を基に表を作成した。表の見方は、「相談」、「緊急」、「体験」、「人材」、「地域」、「行政」、「協議会」、「事業所」の区分ごとに全体会構成員の平均値、事務局の平均値、全員の平均値を記載している。この結果から議論してほしいのは3つ。1つ目は、「相談」、「緊急」、「地域」、「協議会」、「事業所」については、全体会構成員と事務局の平均値は近いが、「体験」、「行政」ではその差が大きくなっている。これは、全体会構成員と事務局との現状の認識に差があることを示しており、構成員から回答してもらったコメントを確認した。まず「体験」については、全体会構成員の「体験」のイメージは就労体験や日中の居場所の体験が多く、体験先がグループホームでの体験等の各法人での取組による回答だった。事務局は、宿泊体験を中心としたイメージで市内全域での体験先についての回答になっている。その点で差があることが想定された。次に「行政」について、全体会

構成員からの回答は、「協議の場があること、計画への反映に対する評価と所管課外との連携の期待」であり、事務局は「さらなる協働への期待と目指すビジョンの共有への期待」の回答があったことによる差であることが想定された。また、「人材」を除く7分野では、全体会構成員の平均値が事務局平均値よりも高いが、「人材」のみ全体会構成員の平均値を事務局の平均値が上回っている。全体会構成員は人材確保の面で回答している一方で、事務局は人材育成の面で回答していることによる差であると想定される。この3点について議論していただきたい。

<p>副会長 阪田氏 (進行)</p>	<p>8分野のうち、「体験」と「行政」で差があった。「体験」について、そもそも地域生活支援拠点の整備は、居住支援の整備が大本にあるため、基本的に宿泊体験の評価をしてもらう。日中の活動場所（生活介護や就労継続支援B型）があっても良いのではないかとこのところで評価が分かれたと思う。その点で意見をもらいたい。しおみの丘松平氏はレベル3と評価しているが、宿泊体験と考えるとどうか。</p>
<p>しおみの丘 松平氏</p>	<p>グループホームが1つで男性棟しかない、女性の体験ができない。今は2つできたので男女ともに利用できるが、あゆみ会の利用者に限られている。障害が重い軽いは別で、地域で体験が必要な人、一人暮らしができる人、入所せずグループホームで生活する人、一人暮らしをしたり兄弟で生活する人等、色々パターンはある。一人暮らしの体験が必要。どちらにせよ、市内には体験の機会が少ない。誰でも利用したい時に利用できる訳ではない。</p>
<p>副会長 阪田氏</p>	<p>レベルは3ではなく、2くらいか。</p>
<p>しおみの丘 松平氏</p>	<p>はい。</p>
<p>副会長 阪田氏</p>	<p>手をつなぐ親の会岸野氏はどうか。宿泊体験をする場がみよし市にあるか。</p>
<p>手をつなぐ親の会 岸野氏</p>	<p>みよしにはないと思う。また、事業所を利用している人にとっては体験できる場はある程度確保されるが、一般企業や他市町村の人は宿泊体験の場は0だと思う。</p>
<p>副会長 阪田氏</p>	<p>資源が整っていないので、レベル1か。</p>
<p>手をつなぐ親の会 岸野氏</p>	<p>全員にと考えると、整っていないとは感じる。</p>
<p>副会長 阪田氏</p>	<p>宿泊と日中と見解の差はある。構成員の平均が2.44で、事務局平均は1.7。構成員としては、レベル1かレベル2かという認識でよいか。 —異議なし— 続いて「行政」について、構成員の平均が3.28。構成員は、多機関での連携が動き始めている、一定の仕組みが確立されている段階・時期だという見解。事務局は、仕組みが行政内のみで作られている、他の社会資源やサービス事業所・機関に委ねているという見解。行政としてはどうか。</p>
<p>福祉課</p>	<p>横の繋がりが密ではないというところは重々承知している。庁舎内でも縦割り感</p>

岡田次長兼課長	は否めないが、最近では居住支援の件等でも様々な機関と連携しながら行っている。また、学校教育課の医療的ケアの件でも連携しながらできるようになってきている。まだ足りないところはあるので、今後また進められるように取り組んでいきたい。
副会長 阪田氏	多様なニーズが山積している。良い暮らしを考えると、横の繋がりも更なるブラッシュアップをしていかないと、地域で支えられない。15年前と今を比べるとはるかに連携はできていると思う。ただ、課題がそれ以上に出てきている。更なる連携や官と民が一体になる仕掛けが必要。部会長のキッズラバルカの川北氏はどうか。
キッズラバルカ 川北氏	事例を通すと横の繋がりが必然的にできてくると思う。それがまだ点の繋がりで、面で繋がっている感覚が乏しい。相談支援事業で三好塾を開催しており、ここでは、コミュニケーションや多職種連携を中心に研修を行っている。コミュニケーションエラーが起きていると思うことが多い。それは、この指標でもそうだが、言葉の意味合いや捉え方がそれぞれのバックボーンによって違う。それがこの差にも表れているのではないかと。行政ともっと情報共有や課題の共有をすると、差は縮まるのではないかと。思う。
副会長 阪田氏	言葉の意味だけではなく、その背景も共有する作業が必要。それをしようと思うと、コミュニケーション・議論を深める必要がある。ここは「協議会」。先ほどの話は、来年度の協議会を推進するためのキーワードになる。引き続き強化していきたい。続いて、「人材」について。三輪氏から人材確保と人材育成という話があったが、分けて考えた方が良いか。わらびの熊谷氏はどうか。
あさみどりの風 熊谷氏	「人材」の評価基準に『相談担当者に対してSWの確保・養成ができています。』と記載されている。読み取り方によっては、「相談担当者がSWになる」ではなく、「相談担当者に対してSWが必要になる・確保できている」と思うと、かなりハードルが高く感じる。川北氏からも話があったように、相談員支援専門員たちがSWとして動いていこうとして三好塾等の研修を工夫して開催している中、この部分でズレが生じるのではないかと。また、確保と養成を分けることに関して、問題としては別だと思うが、確保しなければ養成もできない。
副会長 阪田氏	項目の見直しは、何年か周期でやっていかないといけない。確保と養成は一緒に考えるということで良いか。
みよし市 社会福祉協議会 谷口氏	はい。ただ、確保すること自体が困難になってきている。福祉に限らず、どの分野も人材を確保しようと思うと困難。確保も同時にしていきながら、今ある人材で育成をしていくというスタンスで良いかと思う。
副会長 阪田氏	地域生活支援拠点の「専門的人材」は、強度行動障害や医療的ケアに対する専門的人材の確保をするという意味合いが強かった。みよしの場合は、SWを基軸に考えているところが他市町村とは違うと思っている。SWの定義について、人材育成検討チームの事業報告書の裏面に記載してある。これについて、しおみの丘秋田氏説明をお願いします。
しおみの丘	3年程前にみよし市で定義を作成したと聞いている。みよしの市の定義としては、

秋田氏	「専門職は人間がよりよく生きていけるようになることを目指す。社会に問題があれば社会を変え、人間関係に問題があればその問題を解決し、結果として人々が本来持っている力をうまく引き出せるようにしていく。」としている。
副会長 阪田氏	専門というよりは、皆がこれを目指してほしいという思いがあった。本人主体と今は言われているが、生きづらい人がどんどん増えており、障害者は1,000万人を超える。特に精神障害者は400万人を超えている。社会に発信していくことが必要。本人が本人らしく生きていこうと思うと、本人主体、本人の人権や社会正義を大切にすることが基本。本人主体で考え、社会の問題を共有して、変えていくという意味合いがあるように思う。そこを意識してやっていくとより良い街になると思う。地域診断表について、みよし市の評価を決めなければいけないため、再度構成員に評価してもらい、3月31日(金)までに提出してほしい。
3 その他(各機関からの連絡事項)	
事務局福祉課立石から説明。 来年度の全体会は、7月18日(火)、11月24日(金)、3月21日(木)を予定している。場所は、みよし市役所3階研修室。会議の詳細については、会議が近づいたらまた案内する。	
泰山寮 近藤氏 (会長)	協議会長について、以前の全体会で、協議会長の任期は2年が目安、また、会長は市内の福祉事業所から選出することとなっている。私は令和3年に会長を務めた柴田の任期を引き継ぎ、令和4年度の会長を務めたため、次年度からは新たな会長を置くこととなる。次期会長について、みよし市社会福祉協議会の谷口氏を推薦したいが、どうか。 —異議なし、拍手— 次期会長は、みよし市社会福祉協議会の谷口氏にお願いする。谷口氏から一言。
みよし市 社会福祉協議会 谷口氏	会長という大役を引き受けるということで戸惑っている。歴代会長を務めた阪田氏、熊谷氏、松平氏、柴田氏、近藤氏は、素晴らしい実績をあげている。それを引き継いで、山積する課題を踏まえてどのように発展させていけるのか、不安はある。今までの方にもご支援をいただきながら、力を貸してもらいながら進めていきたいと思っている。難しい課題が多いかと思うが、構成員とも繋がりながら解決していきたいと思うので、よろしくお願いします。
泰山寮 近藤氏 (会長)	この協議会は、障害がある人もない人も安心して住み慣れたまちで暮らしていけるまちづくりの一翼を担っているため、より進化していけると良い。また、当事者に寄り添いながら活動を展開していきたいと思うので、引き継ぎよろしくお願いします。

—閉会—

作成	福祉課	立石 恵莉	R5.3.28
----	-----	-------	---------